
◎議案第21号の上程、説明

○議長（藤井 要君） 日程第7、議案第21号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（長嶋精一君） 議案第21号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についてでございます。

詳細は担当課長より申し上げます。

（企画観光課長 高橋良延君 提案理由説明）

○議長（藤井 要君） 以上で提案理由の説明を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後3時25分）

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後3時40分）

◎会議時間の延長

○議長（藤井 要君） 申し上げます。

本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

◎議案第21号の質疑、討論、採決

○議長（藤井 要君） これより、質疑に入ります。

質疑を許します。

○3番（小林克己君） 18ページ、支出の資本的支出1建設改良費、2資産購入の中の3節の作業運搬具に対して聞かせていただきます。これは、新しく、1台増やすものですか、それとも、車両の交換ですか。

○企画観光課長（高橋良延君） 今ある既存の車両を、買い換えるという形での計画でございます。

○3番（小林克己君） 5ページのキャッシュフロー計算書より、昨年よりは、良いような予定キャッシュフローになっていると思いますが、この車両の購入を控えればもっと良いキャ

ッシュフローの計算書になるのではないかと自分は思っております。この車両を購入するこの必要性を教えてくださいませんか。

○企画観光課長（高橋良延君） まず、必要性ということで申し上げますと、既存の今の車両が平成21年度に購入をした物でございます。こちらのほうがですね、今、あそこは非常に塩害がひどくて、そういった塩害による車両の腐食、あるいは、ブレーキ装置ですね、ここのABSというブレーキ装置がありますけれど、ここの、やっぱり不具合が何回も出てですね、業者にも修理という形では出しているんですけども、なかなか根本的に直らないと、業者のほうでも、なかなか難しいというような中で今回、やはり、お客様の送迎等にも必要なことですので、買い換えという形で、計上させていただきました。ただ、ブレーキのその関係についても、その業者を替えれば、出来るかどうかというところもあるものですから、ここは、ブレーキとか、そういう所の形で直ればですね、買い換えというのは、予算には計上しますけれども、そこの所は、また来年度にという形でもそれはまた、先ということもできるのかなということでは考えてますけれども、一応、そういうことで、やはり今危険があるという中で、ここは計上させていただいたということでございます。それから、これが、財政をですね、圧迫するということでは、特に我々のほうでは、考えてございません。当然、車両を購入すると、300万のお金がかかりますけれども、減価償却で、毎年必要経費を落としていくという形になりまして、車両の場合ですと、耐用年数5年でございます。毎年度約50万円くらいですね、こちらのほうが減価償却費で5年間という形で、かかってくるということございまして、今、原価償却費についても、毎年度、逆に償却が終了したものというものもありまして、そんなに原価償却費がこの車両を買ったから、増えるということではございませんので経営上は、圧迫するということはないなということで、考えております。

○3番（小林克己君） 今の耐用年数5年という話を聞きますと、中古車の購入ではなく、新車の購入であるという・・・、捉えてよろしいでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） こちらの予算の計上は、一応、新規の新車の予算の形でということで計上をいたしました。ただ、これを実際に、やるとなった場合に中古車等含めてのそういった車両の購入というのは、検討材料ということで考えたいと思います。

○3番（小林克己君） 最後の質問になります。確認になります。中古車とかってなりまして、この耐用年数とか、この固定費にかかる、この50万であったものが、もっと小さくなるという認識でよろしいですね。

○企画観光課長（高橋良延君） 中古車になると、当然、取得価格っていうのがもっと下がる

ということですので、ただ、耐用年数については、これは税法上5年というのは変わりませんので、5年で償却するということでございます。

○1番（田中道源君） 内容としましては、ページ数がアレなんですけど・・・、20ページお願いします。管理委託費の明細の所についてちょっと質問したいんですが、1月の22日に全員協議会がありまして、そのときに酒類の販売を検討して欲しいというような話がありました。その後、2月のたしか19日だったかと思えますけれども、まつぎき荘のいわゆる委員会がありまして、その際も私、全員協議会でこういう話がありましたけれども、という中で、町長からですね、是非やるだけちょっとあたって見てくれというお話を支配人にされておりました。その中で、今回、酒類の販売をするにあたっては、資格を取ったりといろいろ費用がかかってくるもんだなあ、思うんですけども、今回ちょっと明細等に載ってきていないんですけども、その酒類販売についてのその後の経緯っていうのを・・・、経過っていうんでしょうかね、教えていただけますか。

○企画観光課長（高橋良延君） これは、田中議員からもありましたように、お土産とかですね、売店のところで、お酒が販売できるようにしたらいいなというようなことであつたわけですので、それは、我々のほうもその所は、酒類の販売ができるようにということで振興公社の事務局のほうには、指示を出しております。それで他の所のどういった手続きが必要だとか、そういったことは細かいことを調べておりますので、その所がいったい、ハードルがうんと高いのか、簡単にこう・・・、もっとできるのか、含めてですね、今公社のほうでやっておりますので、そのところは、まあ、結果、そういった調査をした上で、そこは前向きに考えていくというような形で今やっておりますので、ご理解下さい。よろしくお祈りします。

○1番（田中道源君） 今、まだ、検討中ということですので、是非進めていただきたいなと思います。まあ、やはりこの、3月の定例議会というところに、予算が載っかってくるというのが、来年度、こういうことやるんだな、というのが見えてくる話になると思いますので、まあ、この、2月の19日の委員会があつてあまり時間がない中での、まだ、ちょっと、載せるまでに至らないよ、ということでありましたら、この委員会自体ですね、開催時期というのも検討されてもいいのかなと思います。なかなか、そんな、年に2回位しか集まらない中での、そこで出された意見とかが、反映されるのが、更に1年先とかだとちょっともつたないなと思いますので、せっかくあそこで委員の方々が集まって意見を出してくれておりますので、それが予算に反映できるくらいの、スケジュール感をもって、開いていただけ

るよう、是非、ご検討をお願いいたします。

○企画観光課長（高橋良延君） 当然、とるにはですね、免許といいますか、料金がかかるか云々というのがありますけれども、そんなに大きい金額でなければ、この委託料の中ですね、費用の中では当然流用云々というのはできますので、その所は、この中の費用の中で、やればやるような形で、考えていくというようなことで考えております。まあ、委員会のほうには随時報告、それはしてまいります。

○7番（高柳孝博君） ページは1ページのところで、宿泊者が、ですね、さっき、2万1千人で対前年比で700人減った、非常にここを心配するわけです。まして、今のコロナウイルスの関係で4月がちょっと、どうも危ないんじゃないかなあ、っと気にするものですから、さらなる策を打たなければいけないと思いますね。そのあたりで、やっぱり、マーケティングっていうか、どういう所から来ていて、何を求めて来ているかというのが1つ、サーチする必要があると思うんですけども。もう一つは、体験を含めた、組み合わせ、これを今後やっていく、今はどのようなことをやっているのか、蛍を見に行くとか、なんか色々あるような気がするんですけど、どんなことをやられているのか。それから今後、何回もくどいようですけど、やはりふるさと納税というのは納税する人も得しますし、それは松崎町が、お金を使った分が、帰ってくる話ですので、使う人が得をする。そして、松崎町のほうも、売上げが上がる、そして一方で税金まで上がってくるという、一石三鳥みたいな話ですので、ここを強力に進めるというのは、町にとって非常にいいと思いますので、改めてですね・・・まあ、委員会とかなんかで色々出たかもしれないけど・・・改めて、その所を、しっかり詰めて、今年、何月までに何をやるのかってというようなことをやって、実行に移るところまでを是非実施計画みたいのを作っていたきたいなと思います。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） そうですね、ありがとうございます。まず、まつぎき荘の利用者については、60代から70代のカップル、いわゆる2人連れ、ご夫婦という形・・・形態が圧倒的に多いです。そういったところで、じゃあ、どこから、来ているかという所についても、東京、神奈川、静岡、この3つである意味ほとんど占めているというようなことでございます。だもんですから、我々のほうは営業関係についても、神奈川とか、そういった静岡方面、そういったところ含めて重点的に行っているというような所でございます。まあ、その成果も、徐々にではありますけれども、現れては来ていると思いますので、引き続き地道にですね、これは、やっていかなければならないと思いますので、よろしくお願いま

す。それから、ふるさと納税についても、現在の所61件の利用ということで、これも、まだまだ、少ないなというような形で、考えています。だもんですから、ここの所をより増やすという形で・・・、やっぱ、ただ単なる宿泊だけの提供という形ではなくて、なにか、付加価値をつけれるかな・・・、というような形で、魅力あるプランとか、そういったものもメニューに入れながら・・・、ということで考えたいと思います。以上です。

○7番（高柳孝博君） まあ、グリーンツーリズムもそうですけれど、最近言われているのは物の豊かさから心の豊かさというふうになってきている。特にこの年代60代70代の方達は、心の癒やしというか、こんな所を求めて来るのではないかという気もしますよね。そうするとそういったメニューをやってあげると、うれしいんじゃないかなと思います。もしかすると、歯が悪いとか・・・、そこまで言っちゃあ悪いかも知れませんが、食事なんかも、若い人達と違うかも知れませんが、そういう所もやっぱり色々サーチしてお客さんからの意見っていうのも取り上げていく必要があるんじゃないかと・・・、それに向けて、まつぎ荘としてはどんなメニューを考えたらいいか・・・、体験といっても、スポーツとかなんかはこの年代だとなかなかできないでしょうから、この年代が喜びそうなもの、ちょっとした健康ウォーキングみたいなものもあるでしょうし、是非、そんなものを考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 仰るとおり、ふるさと納税とミックスさせてそういうのをやっていきたいなと思っています。一番今危惧しているのはね、コロナウイルスの関係で、非常に心配しているんですよ。ただ、我がまつぎ荘はですね、以外と団体客が少ないものですから、個人客、さっき言いました60代70代の人達っていうのは、リピーターって言うんですかね、他の、西伊豆町だとか、団体客をうんと取り入れているバイクショップ方式でやっているというところよりも、少し良いのかなと思います。で、これで、あるとするんじゃなくてね、今仰った、その営業をかけていくと東京、横浜、それから静岡市かなりお客さん多いものですから、こういう方達を、まあ、ゾーンとして実際問題バイクショップへ行ったり、ですね、しているわけですので、ネットで呼びかけたり、だから、汗をかく仕事と、それからネットの仕事、縦横無尽にね、やっていきたいなと思っています。

○5番（深澤 守君） 先ほど、高柳議員からの質問がありましたけれども、1ページの人員について、お伺いいたします。これ、この2万1千人っていうのは、これは、努力目標ですか、それとも、ここまで、しっかりと、達成していききたいという意志をもった人員でしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 努力目標も含めて、2万1,800人これを達成するという形でございます。

○5番（深澤 守君） 前にですね、審議した、一般会計の補正予算が700万円の赤字ですね。で、今回の大体700万位の・・・赤字が・・・、決算のアレが700万円くらいの赤字で出ているわけですね。行政報告の中の、まつぎき荘・・・。今回の、これ、予算がですね、100万円の大体黒字、ちょっとね、乖離が800万位あるわけですよ、普通大体、町長、一般企業をみていらっしゃるんですけど、普通、大体、事業計画・・・、人員とか、事業計画を立てて、それで予算を組んでくるわけですよ、これ、これだけの乖離があると、事業計画自体、立てれないと思うんですけど、その辺の見解について、町長、いかが思う・・・、あまりにも、これ、現実と乖離する数字、予算だと思うんですけど、その点についていかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 事業をやっていく上では、目標を立てるのは当然のことでありまして、ここまで伸ばすという形の目標を立てて、やるのは、何処もそうだと思います。その上で、じゃあ、そこに、どうやっていくのかというような事を考えて行くわけで、初めっから、もっと、じゃあ、低いあれなのか、数字が現実的なのかどうかということじゃなくて、努力目標も含めてこの2万1,800人、宿泊利用率44パーセントこれを達成していくということ掲げたわけですので、それに向かってやっていくということでございます。

○5番（深澤 守君） じゃあ、今の回答ですと、いろいろな、今までですね、できないと、やはり、その、景気が悪かったとか、台風が来たとかってそういうことを言っておりますが、今回はそういう話をなしで、一生懸命やって結果を出してくれるということで、理解してもよろしいということでしょうか・・・。

それと、もう1点なんですが、先ほど、その・・・、料理の関係で仰いましたけれど、大体60歳から70歳くらいの方が、大変多いということの回答でしたけど、私、今自分で、料理作って・・・、お年寄りの為に料理を作っているんですけど、今ですね、昔は200、300のご飯だったんですけど、今、100グラムくらいの量でも十分満足して、買ってかれるんですね。そうすると、今の料理体系でいくと、ちょっと、っていうか、凄く多い、ボリュームが多いような気がするんですよ。ましてや、ある程度のお客さんになると高級志向になって来るので量よりも・・・、多少、良いものでも少なくてもいいという、感じも見受けられるんですね。そうすると、今の料理というのは、あわなくて、もっと、その、対象者にあわせるような、料理に変えていかなければ、なかなか、この60代70代の方のお客さんっていうのは満足していかない印象を受けるんですけど、その点についてどのようにお考えになられますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 何もですね、台風のせいにするとか、何のせいにするとかということでは、まったく考えておりません。宿泊減少の要因っていうのは1つではなくて複合的と前にも申し上げましたけれど、いろいろなことが重なりあって減少というのが起きるという認識でおりますので、当然、そういった要因はあるでしょうけれども、営業とか、サービスとか食事、財務面全てそういったことから、分析を行って、じゃあ、何がたんなかったのかということ、経営改善に活かして行きたいということで考えております。それから、料理については、それぞれのやっぱり評価がございます。我々アンケート調査を毎日とっております。その中で、料理の品数が、ちょっと足りないなという方もいれば、多いなあという方もやっぱり、それぞれの評価ってあるんです。ですので、そこの所は、やっぱり、最大限、お客さんの満足いただける、料理という中で、今やっていますので、そこをもっと少なくしたほうがいいのかなんとか・・・、っていう1つそういったことで片付けることではなくて、やはり、今の現状を見ながらですね、お客さんの意見を聞きながら、また、分析して、満足できる料理を提供してまいりたいと思います。

○5番（深澤 守君） 一例を挙げたまでです、そんなにムキになって否定することもないと思うんですが、こういう意見があったということで回答していただければ、私は満足だったんですけれども、俺が言ったからいきなりね、否定されてもね、立場が、そこの所は、そういう話です。

もう1点なんですけれど、その、今、たとえば、余所のホテルですと、4名泊まると、なるべく、その、宿泊利用率を上げたいためにですね、2人で泊まる所を4名に泊めるとか、そういう方法もあると思うんです。逆に、今の、一泊だと、掃除したりするのも大変ですから、上手く得点をつけて2泊とか、そういう部分っていうのもあると思うんですね。そうすると人件費の割には、収益が上がっていくということはあると思います。その辺の取り組みについてですね、やっているのか、若しくは、やらなかったら、今後、どのような形で、取り組む考えがあるのか、お答え願います。

○企画観光課長（高橋良延君） 非常に良い意見ありがとうございました。やっぱり、連泊というのは、1つ大きな強みになると思います。前にもやっていたけれども、連泊すると特典2泊目以降の割引をかなりするというようなこともやっていたので、そういった所の連泊プラン、そういったところは当然、ここは見据えて導入するという形では良いのかなという形で思っています。まさに仰るとおり、そういったこと、連泊の人を増やしていきたいということも1つございます。あと、大きい人数でね、多人数でということがございま

したけれども、今現在のまつぎ荘の形態をみると、さっき言ったように60代70代のカップルの方が多いとか、やはり、そういったペアの方が、多いというところもございますのでここはやっぱりそれぞれ、年代のアレもあるでしょうから、なるべく多い人数に泊まっていたきたいんですけども、そうは言っていられませんので、ここの所は、それぞれ、学生とかの営業もかけていますので、学生とかは多い人数で宿泊してもらおうとか、一室にですね、そういったことで棲み分けながらやっていきたいなと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 水道料のことについてお聞きしたいんですけども、外の井戸水で温泉を冷やしている・・・この井戸のポンプが壊れてしまって、ということですけど、これは、いつ頃から、壊れてしまっているのでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 今年度の夏前くらいでしたかね・・・今年度、昨年ですね、入ってからということで、もう、なかなか、水道料が上がってきたなというような事がわかりましたので、そこで、判明したものでございます。

○2番（鈴木茂孝君） そうしますと、月にやっぱり、15万から20万くらい増えている計算になるかなあと思うんですけども、これは、いつ頃直すとか、そのような予定はありますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 今現在、調査もしてまして、ただ、井戸水の関係については、なかなか原因がわかりません。だもんで、別の方法の、冷却方法についても、業者等探しまして、今現在、現地に来て、どういった方法っていうのを具体的にやっています。

○2番（鈴木茂孝君） 私、昔、温泉プロジェクトってやっていたりして、温泉のことで色々調べたんですけども、たとえば、この・・・、21ページの一般修繕ってところに空調があります。空調で、例えば、温泉をですね、新潟のほうでは、温泉を管を通してその熱風をただ風を流すだけでも熱風になるので、それで、暖房にしているという旅館もありまして、そういうのを使っていくと、暖房費も浮くし、温泉も冷めるし、っていうことで、非常に良いのかなというふうに思っています。そういうのは、多分、専門家が、各地というか、温泉の所調べれば、**と思いますので、そういう方に、聞いて空調もちょっと調子悪いのであれば、一石二鳥じゃないのかなと思いますので、そういうものもちょっと調べられたらどうかなっていうふうには思います。

それからもう1点、これは、別ですけども、今のコロナウイルスで、お客様も少ないと思うんですけども、この中でパートの方とかを、少し出勤を減らして、対応をしているというようなことは今ありましたらどのような感じでやっていますか。お聞きしたいと思います。

す。

○企画観光課長（高橋良延君） 温泉熱のプロジェクトは、私も参加していましたので、よくわかっておりますけれども、新潟の松之山温泉というところが、あったかなと思いますけれども、そちらの方法だと思います。それについては、あそこは始めから立ち上げる時に、そういった方法をとることでありましたので、後付けでこうやったわけじゃないというような事もあると思いますので、そこはまた聞くのは、やぶさかではありませんので、調べます。

また、もう1つコロナウイルスの関係ですけれども、実は、今、コロナのキャンセル状況をとりまとめているので、まつぎ荘では、5月までで613人・・・、こちらの取り消しというような形の、報告がきております。かなり、非常に、影響は出てきていると、というようなことでございまして、当然、パート、臨時パートですね、についてはお客さんの入れ込みが減ってくるとその出というのは非常に制限されてくるということになりますけれども、今、状況がどうなのかということでは、具体的に、数字は持っていませんけれども、一応、そんな状況でございまして。

○2番（鈴木茂孝君） 例えばですね、この機に地元の方々にまつぎ荘に泊まってもらって、またPRしてもらおうということも良いんじゃないかなと思っていて、たとえば地元の方のプランで思い切って料金をちょっと下げてみて、まつぎ荘良かったよと・・・で、これで、また他のところへ、宣伝してもらおうというのも、この機会ですので、何も入らないよりは、入ったほうが良いと思いますので、そういうのもやってみたらいかがだと思います。

○町長（長嶋精一君） 良い考えだと思います。いろいろと相談して、実行に移せる所は実行に移したいと思っております。そして、長期滞在型プランというのですね、これも真剣に考えていきたいなと思っています。2人連れのお客さんが多いからこそ、その強みをやっぱり、活かしていくべきだなと思っております。ありがとうございます。

○8番（土屋清武君） まず始めに、ちょっと先ほど、数字を聞き落としたものですから、再度お伺いしたいですけれども、まつぎ荘の友の会、何百人って言ったか、ちょっと、教えていただけますか、始め・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） 929人でございます。

○8番（土屋清武君） 929人ということで、最近増加傾向にありますか、それとも横ばいですか。

○企画観光課長（高橋良延君） これはですね、当初からずっと、増えてきてございまして、今

の数字ということでございます。

○8番(土屋清武君) この友の会も、私がいるときに作ったことですが、それですね、宿舎はサービス業であるわけですが、これが公社職員が10名、それでパートとかが30何名、これは布団敷きなんかもあるでしょう、掃除だけの人もあるでしょう、いうことで、この人員です、お客さんに満足してもらえるようなサービスができますか。伊豆まつぎ荘は過去においても接客関係は、国民宿舎じゃあ、ずば抜けているというような事で、各宿舎から、研修に来ていたわけですが、それが今、鶴の岬荘、茨城の、あそこなんか、今、全国でトップクラスになっているわけですが、議員も視察に行った時にも、内容は別に、変わったことはしていませんよと、宿舎で、松崎の国民宿舎で研修したことを、そのままやっていますということで私らみんな、そのような事で、説明を受けたわけです。この前の決算の時にも言いましたが、今、玄関に入ったって、時間によっては誰もいないですよ。そういうこともありますよね、これは・・・。サービス業はね、いつでも対応できるような状態でないという、お客さん、なんですかって、余所から来て知らない人がね、心細くなりますよ。そういうようなことでね、この、臨時パートが37人、職員が10人というような事で非常に私は、不安を持つわけです。さっき、企画観光課長は、各・・・、なんです、オートバイショップでやっているとか、他の施設へと、誘客に努めるというような事で、その効果はだんだんと出てきているということですが、今後ですね、来た人を満足させるのが、サービス業だと、後に繋がるか、繋がらないか、ですから職員にはね、ましてや、正規職員が10名で後は臨時パートだと・・・、こういう方達に、臨時パートにね、週に1回、月に1回というような事は、何日おきにということでは、別にしませんが、私・・・、極力ですね、時間を持って、松崎の国民宿舎こういう所で、サービスをするのが、まつぎ荘の今までのしきたりだというような事を徹底して受けてもらって、お客さんに対してですね、帰る時にただフロントの前でね、ありがとうございます、玄関にも送りがなしと・・・、お客さんが2人だからいいじゃないかと、そんないうものじゃないですよ。2人だろうが1人だろうが、玄関まで行って、送り出すのが、これは、サービス業の精神ですよ。私はそのように指導してきて、おかげさんでトップをやっていたわけですが、今この人員で、サービス業をやっているかという、私の聞いている他の関係ではですね、まあ、ホテルなんか、銀行から融資してもらって、それを銀行管理に、施設がなると、そうなるという、一番始めに言われるのが、人件費比率を下げる、それと次に材料比率を下げる、下げることによって、そこのさやを銀行が、不良債権にならないよう

にしてあげると・・・。こういうことで、伺っているわけです。そういうことっていうのは、もう、先細りですから、お客さんに対して。サービス業は徹底した、お客さんにサービスすることによって、長続きし、いろいろな条件が、生じた場合でも、なんとかやっていけるといようなのが、普段のサービス業の元であると私は信じておりますけれども、どうもこれではですね、人件費がこんなに下がって、一体満足できるのかと・・・、お客さんが。非常に心配するわけです。

○議長（藤井 要君） 土屋議員、答弁を求めましょうか。

○8番（土屋清武君） ですからね、もう少し、ここら辺を、検討し、もう一度見直すというような事を、考えておりませんかでしょうか。食事材料費についてはですね、まあなんとか40パーセント近くまで見直したというようなことで、以前は聞くところによると35にしれというようなことを伺っていたわけですが、今回の予算では、39ということですね、若干、それなりに、見直しているのかなということで、これについては、今後の、お客さんの入り具合というようなことで・・・、したいと思えますけど、この辺をどういうふうに考えますか。

○議長（藤井 要君） 答弁は短く簡潔にお願いします。

○町長（長嶋精一君） 簡潔に、長く話したから・・・。

○議長（藤井 要君） 調整です。

○町長（長嶋精一君） 時代がね、土屋議員がやられたことと、全く様変わりであります。松崎町はかつてね、依田町長がやった時には、本当に、視察御三家と言われて、今をときめく富良野とかね、美瑛とか、ああいう所から松崎町の花とロマンの里を視察に来たんですよ。と同時にまつぎ荘も今のまつぎ荘じゃなくて古いまつぎ荘だったけども、非常に収益力が良かったという時代です。時代とともにね、やり方は変わるんだろうけれども、私はですね、国でも町でも企業でもね、赤字体質っていうのをまず治して行くには、出血を止めて行くには、徹底した経費削減をやっていかなければ、浮上できないんです。これはもう、方々見ればわかると思います。それをずっとやっている事じゃないですよ。銀行は別に、銀行のためにやるんじゃないで、そのお取引先のホテルとか旅館の為にやるわけですから、一時それは我慢をしていただいて、徹底的に削減して、それから浮上するということがね、一番の私はやり方だと思います。従って今まつぎ荘厳しい状況です。しかしながら、あと、そうですね、3・4年するとですね、借入金の負担、あるいは償却負担というのが、ドンドン少なくなります。今、ここで、ですね、しっかりと、その、お客さんに対す

る、サービスしなきゃまずいです。ここでスリム化してですね、それから、立ち上がっていくということは可能だと私は思っております。今、正社員、パート、臨時それぞれ少ないですけどね、少ない中で、繰り返ししてね、助け合いながら、立派にやっていると思います。私が議員の時、まつぎ荘に入ったらね、誰もいない、それで、フロント行ってチンなんてやってね、そうすると中から出てきたりするわけですよ、私が議員の時からそうでした。それを僕はダメだと言って、やはり、少ない中でも、お客さんを迎入れる体制にしなければダメだと、いうふうにしております。それだけご理解下さい。

○8番（土屋清武君） 町長がね・・・、今、確かに私のいた時は、昇り調子だったから、そのような結果になったということは、私だって自分自身、思っていますよ。だけど、それなりのね、サービス業としての本心は尽くしたからそのようになったと。現実には、今だってトップをやっている所は、**ですよ、全国でも国民宿舎でね、トップクラスをやっている所は、サービス精神に乗っ取ってやっていて揺るぎないですよ。だからね、時代だ時代だって言うけども、ちゃんとしたサービス業の精神に乗っ取っているところは、それなりにちゃんとやっているがですから、なんでも、当時は良かったからだと、それなりに努力している所は結果がちゃんと出ているわけですから。当時だったって、伊豆に6荘あったわけですよ。土肥、河津ね、そして、湯ヶ島、中伊豆とそういうような所があったですけども、現にまつぎ荘がトップでずっと行っているがですから、時代じゃないですよ、赤字でなっているところはいくらかでもあったんですから・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「いいですか。」）

○8番（土屋清武君） まだ、言っているんですから、だから、時代に、町長は時代だからと
いうことで言いましたけれども・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「言わせて・・・。」）

○議長（藤井 要君） 町長、もう少し待って・・・。

○8番（土屋清武君） だからね、それを承知しているのは、統括、高橋企画課長もそうでしょう、その当時は結構厳しかったですよ。年間の無料サービスだって、徹底し桜葉餅、色々と事業だって、考えてやらなければならぬというようなことから、桜葉餅だったって、まつぎ荘でできたわけですよ。それが今、松崎の全体、桜葉餅という命名でやっているわけですけども、それなりの努力をしているわけですよ。当時は・・・。

○町長（長嶋精一君） 土屋議員も努力したでしょう。しかし、私の横にいる統括課長、あるいは後ろにいる企画観光課長も当時若くて、一騎当千の働きをしたと思います。みんな揃っ

て頑張った、そういうことだと思います。そして、先輩のですね、振興公社の先輩の・・・、名前を言っちゃあ悪いな・・・、Fさんは、今まつぎ荘の理事をやっていただいております。土屋議員もよく知っていると思いますけれどね、彼が私とそれから振興公社の局長と一緒にね、十日にっぺんは幹部クラスではないんだけど、正職員とそれからパート、臨時、出れる人を集めてですね、今後こういう風にしようじゃないか、今までは、こういうバランスシートになっていると、これじゃあ、とつても、必達目標ができないと、頑張ろうじゃないかということ町長一緒にやりましょうという声がありました。そういう風な形で今後は進めて行きたいと思います。そういう、先輩で、非常に有益なアドバイスをしてくれる人もいますしね、必ずやまつぎ荘は、飛躍的には言いませんけれども、地道にね、なだらかな、上昇をしていくと私は思っております。ただ、今度のコロナウイルスについては、直近的には非常に厳しいと思います。だから、今、しのいでいくという言葉がふさわしいと思うんですけどね、なんとか、この、さっき、深澤議員も言いましたけれども、長期滞在型、それにイベント、いろんな体験こういったことを、ですね、かみ合わせながらね、組み合わせながら、やってまいりたいと思います。ここでちょっと真価が問われるのかなと思います。以上です。

- 5番（深澤 守君） 町長の答弁ですと、まつぎ荘はこれから今まで、その・・・、銀行等が、ですね、やっていた、再建モデルみたいなもので、再建していくような印象を受けるんですね。私が、今の堂ヶ島の現状を自己分析すると、要は正社員をどんどんどんどん減らして行く、その中で、たとえば、派遣の仲居さんと呼ぶ、という状態の中で、経費を落として、経営を安定させようという意図はあったわけですね。それをやりますと、たとえば、私が何処へ行きたいと言っても答えられないんですよ。パートさんでも、意識が・・・、そうすると観光業っていうのは何かというと、僕は人材力だと思います。特に観光の最前線にいる、国民宿舎の従業員が、たとえば、じゃあ、ナマコ壁何処ですかと、私知りませんじゃあ凄く困ると思うんで・・・、やはり、そういう所で、しっかりと国民宿舎の従業員であるという意識を持って、自分は観光の最前線で働く人間であるという意識を持って、サービスにあたって行かなければ、これは、成功しないものだと思います。しかし、なんか、先ほどの町長の答弁だと、いや、そういうのじゃなくて、ドンドン従業員を正規の職員を切ってしまうとパートで雇えば良い・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「そんな事言っていないよ。」）

- 5番（深澤 守君） 何か、そういう印象を受けるんです。

(○町長(長嶋精一君)「そんなこと、全然***。」)

○議長(藤井 要君) 静粛に願います。

○5番(深澤 守君) だから、その所をしっかりと、やっぱり、我々は、こういうまつぎき荘を作りたいと、で、ちゃんとした、従業員教育もやっていくというようなものを確約していただけるような答弁をしていただければ、幸いなんですけど・・・。

○町長(長嶋精一君) 確約というかね、そういうことをやって行かなければ、ダメになりますから、さっき言った、土屋議員も知っていると思うんだけど、先輩と一緒にやっぺいこうという中には、これからの接遇関係とかね、当然町を知っている、お客さんに聞かれたら、答えられないということがないようにね、プロとしてのね、従業員、それが、正社員でなくても、臨時でもパートさんでもね、答えられるような、そういう教育を含めて、やってまいりたいとこのように思っています。以上です。

○統括課長(高木和彦君) 私も、昭和57年から8年までまつぎき荘にいてですね、いろいろな・・・、土屋議員の下で一生懸命やっぺいつもりではあります。そのときとですね、今と、だいぶ状況が違いまして、昔は人口も多かったわけです。また、若い人達も多いものですから、1年間にですね、結婚式が20・・・いくつとか、あったことを覚えています。その中で、ですね、昔の結婚式といいますと、最低でも大体、80人くらい普通の結婚式では140・50それが1日で入るといような状況、また、観光自体もですね、海に来ればそれが最高の観光という時期ということもありまして、今とこう・・・、だいぶ、ですね、そういう所が変わって来ているような感じがします。ですから、今、まつぎき荘はですね、定員の数から、また、前回のやつと全て比較してしまいますと、今のまつぎき荘というのはその結婚式とかなかなかないものですから、単純に比較してしまうと、かわいそうなことがあると思います。それともう1つ、私、あの当時の事は今考えてみたら、調理人が何人いてそのパートが何人いて事務所は何人って・・・、全て、大体覚えていますけれども、なかなか、少ない人数で、やったことは覚えています。ただそれと、深澤議員ですとかの話っていうのは、1人1人のスキルを上げて、もっといいまつぎき荘にしるよという励ましの言葉だと思っていますので、ですけれども、町長今回、人事考課を入れるということで・・・、ただ単に具体的にどの・・・、あのなんです、ことを・・・、役場のほうの、人事考課の内容じゃなくてですね、さっき、ちょっと、出ましたけれども、ナマコ壁について勉強しているだとか、松崎町の史跡について、本当に勉強しているだとか、そんなことを評価項目に入れて職員1人1人がいい・・・、言ってみればまつぎき荘の資源になるような感じ、たとえば土屋議員なんかは、銀

水荘なんかの弟さんなんか、家のほうにいる方っていうことは知っていますけれども、銀水荘の従業員さんだって、サービスなんかで全国で5番目に入りますけれども、あの人達がどっかで全部、ホテルかなんかで勉強してきたことではなくて、地元のパートの人達が、支配人なり、そういう人達に、いろいろ指導を受けて、全国で5番目のサービスとかっていうふうになるわけですから、これからすぐってわけにはいかないと思いますけども、しばらく、まつぎ荘の理事長、そういう指導しながらですね、職員の1つ1つスキルアップして、お客さん、また町内の人に可愛がってもらえるまつぎ荘に成長していけば良いんじゃないかなというふうに思いました。

○議長（藤井 要君） 皆さん、電池切れのような顔になってきていますので、しっかりとした質問をしてください。

○5番（深澤 守君） 統括、今の認識ってね、結構違う部分があると思います。何故かというのと銀水荘って、団体客のお客さんと凄い高いお客さんの仲居さんが違うっていうのご存じですよ。ご存じないですか。今、ちょっと、変わっているかもしれないですけども、昔の銀水荘って泊まりに行くと、高いお客さんって、僕が泊まりに行くと、Aさんって子が専属でついてくれます。それは何回行っても同じ状況でついてくる。そういう部分があるから、サービスの部分で高くなる。だけど、旧館の部分については、1万円2万円のお客さんは、そのままバイキングでやっている状況が、その所をちゃんと見極めないと、サービスの部分とかはでない・・・それと、先ほど状況が違うと言いましたけど、今、他のホテルで、4回買収されて、失敗したところが、ある業者が入ったとたんに、稼働率が99.9パーセントとか、ほぼとれない、ホテルを再生するところもあるんです。ですから、現状が、悪いからまつぎ荘が、あんまりぱっとしないの・・・、というのはこれ認識不足だと思います。ですから、しっかりと、自分たちが何をやってきて何処を売りたいかっていうのを認識して、そこを強化していくっていうのが大切だと思います。これは、回答はいりません。

○6番（渡辺文彦君） 先ほどからコロナウイルスの影響に対する懸念を述べられているわけですが、おそらく僕もこのままの経過でいくと、4月5月6月位まではかなり大きなダメージを受けるのかと思うわけです。そういう中で、コロナだからお客が減ったという言い訳をしないようにする為には、何が必要かってことがやっぱり求められてくると思うわけです。その辺で、なかなか、大変な課題を背負っているわけですが、その辺に答えられるような、営業方針なり、サービスを考えて行く必要があると思うんですけども、その辺に対して、今すぐ回答を出せと言っても、かなり困難かも知れませんが、その辺

の方向性をやっぱり考えていく必要が、あるんだろうと僕は考えています。その辺に関して、答えられる範囲で結構ですので、答弁がいただけたら結構です。

○企画観光課長（高橋良延君） やはり、コロナウイルスの影響は、先ほど言いましたように5月までで、現在613人という形での影響ということで非常に大きいです。ただ、これに手をこまねているわけには行きませんので、まつぎ荘の強みって何かというと、1つにはリピーターが多いというのが1つあれです。今年の1月末現在で55パーセントのリピーター率でした。要は、分母は若干減っていますけれども、それでも、55パーセントの人が、リピーターで繰り返し来ているというようなことでありましたので、ここは、当然、新規のお客さんっていうのもそれはやります・・・、考えますけれども、リピーター、さつき友の会、929人こちらはあるといたしましたけれども、こちらの方にも案内も出しています。そういった事でリピーターを何しろ、確保しながら、そこがある程度の基礎的な事になりながらですね、新たなお客さんという形でこう考えて行くというのが1つの手かなというような事を考えていますので、それは一朝一夕にボンと増える何か方策があるわけではありませんけれども、こういった方々を大事にしながらですね、なんとか、乗り切って行きたいというつもりでございます。

○6番（渡辺文彦君） 今、リピーターってことを仰いましたけれども、リピーターに来ていただけるには、まつぎ荘は安全ですよっていうことのアピールが非常に大切なのかと僕は考えます。その辺を含めたアピールがされないと、ただ行くだけとして、やっぱり、行くだけで危険だねっと思われたらやっぱり困るわけですから、まつぎ荘は安全ですよっていうような、説明ができるような、衛生体制を作っているっていうアピールも含めて、宣伝していただきたいなと僕は思うわけです。回答は結構です。

○議長（藤井 要君） 目の覚めるような質問をお願いします。

○7番（高柳孝博君） 目が覚めるかどうかはわかりませんが、先ほどから議員のほうからも、いろんなアイデアが出ました。良かった時代の話もありました。議員もね、みんな心配して、言ってくれると思います。だから、本当にそれを考えていただいて、まつぎ荘は元々は、あそこは研修の場でもあったわけですね。そして、町の、あそこのリーディングヒッターであったわけです。1番最初にあそこでまつぎ荘で、宿泊ってのができて、それから、民宿とかなんかが広がっていったということもありますので、是非、町の情報発信の本当に中心になるくらいの気持ちで、議員さん達も、いろいろ心配してくれて今、言っていますので、是非そこは頑張ってください。ここは1つ頑張りますっていう決意で、

私は締めていただきたいと思います。

○町長（長嶋精一君） 明日の懇親会で皆さんと我々が一致団結して、まつぎき荘を盛り立てていくというそういう雰囲気、まつぎき荘の従業員にも、わかると思いますから、1つ明日期待して下さい。お願いします。

○議長（藤井 要君） この辺で質疑を終了したいと思います。。。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○5番（深澤 守君） 私は、この予算書に対して賛成をいたします。しかし、やはりしっかりと料金改定の時もそうでしたけど、メニューを変えます。サービスを変えますと言って、約束しているわけですが、それにもかかわらずやはり数字がどんどん落ちてきているとやっぱり、言った事は、しっかりと履行していただきたい。そして、まつぎき荘を黒字までにしないとしても何年か計画で黒字にしていきたいと思います。先ほど、町長がですね、明日、まつぎき荘を見ていただきたいという話でしたけど、普段のまつぎき荘を見たいです。是非、審査員が来るから気張ってやるのではなくて、普段のまつぎき荘を見せていただいて、何処が悪いのか、検討してみたいと思います。ですから、期待を込めて私は今回のまつぎき荘の予算について賛成いたします。よろしく願いいたします。

○議長（藤井 要君） これをもって討論を終了します。

これより、議議案第21号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎき荘」事業会計予算についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（藤井 要君） 挙手全員であります。

よって本案は原案のとおり可決されました。